

日本古典文學大系索引



日本古典文學大系別卷

日本古典文學大系索引

岩波書店刊行

日本古典文學大系索引

---

昭和 38 年 11 月 20 日 第 1 刷 発行 © 非 売 品

編 集 岩 波 書 店 編 集 部

東京都千代田区神田一ツ橋2ノ3  
発 行 者 岩 波 雄 二 郎

長野市中御所2ノ30  
印 刷 者 田 中 忠

---

発 行 所 東京都千代田区 株式 岩 波 書 店  
神田一ツ橋2ノ3 会社

---

落丁本・乱丁本はお取替いたします

# 目次

凡例……………三

語句・事項索引……………九

和歌・俳句・歌謡索引……………三七

総目録……………五五



## 凡例

一 本書は、岩波書店版『日本古典文学大系』(1-66)の総索引として編まれたもので、「語句・事項索引」と「和歌・俳句・歌謡索引」とから成り、別に「総目録」を付載した。全六十六冊に集大成された古典研究の諸成果が余すところなく活用されるための一助ともなれば幸いである。

### 語句・事項索引

二 本大系各冊において注解の施された語句(固有名詞ならびに事項を含む)のうち、比較的重要と思われるものを選択して採録した。頭注・補注・解説・付録などからも採った。

※ 例外として、「中世近世歌謡集」所収「撰要目録」の曲名など、注解のないものも載せた。

三 語句の注釈解説に重きをおいて採集し、あまねく用例を拾うことはしなかった。しかし、同一の語句であっても、作品が異なる

凡例

場合は、つとめて採録することにした。

### 項目の掲げ方

四 見出し項目を掲げるにあたっては、かならずしも原文所出の形にこだわらず、検索の便宜を考慮して、つぎのように整理を加えた。

1 同音同字の語句は、その意義・内容を異にするものでも、表記の上で区別したい場合は一つの項目にまとめた。

※ 一般に自動詞・他動詞の別などを問わなかった。

〔例〕 退く ……自動詞(四段)ト他動詞(下二段)トヲ併セタ。

※ 地名は、かならずしもこれを普通名詞と区別せず、また、たがいに異なる場所を指すものも一つにまとめた。

〔例〕 小野 ……普通名詞ト地名トヲ併セタ。

金沢 ……加賀国ノ地名ト相模国ノ地名トヲ一括シタ。

人名については別項五によった。

2 活用語は、左記のほかは、一般に文語体の終止形になおした。

(イ) 終止形の判然としない語、その他助動詞などの特殊な用法を示す場合は、所出の形で掲げた。

(ロ) もっぱら口語として用いられる語は口語体のままとした。

(ハ) 漢語動詞(サ変)や形容動詞は、多く、その語幹のみを項目とした。

3 成句・諺の類は、もっとも一般に用いられている形に改め、長文にわたるものは適宜下略した。

4 主として地名・人名などにおいて、類似した呼称がある場合は、いずれか一つにまとめて、他は省略した。

〔例〕「吹井の浦」ノ項ニ「吹井の浜」ヲ併セタ。

「悪霊の左大臣」ノ項ニ「悪霊左府」「悪霊大臣」ヲ併セタ。

人名の扱い方

5 人名は、他の語と区別して、独立項目とした。

ただし、官職名や地名などが特定の人物の呼称に転用されている場合は、これを人名として前者と区別することをしなかった。

〔例〕大織冠 ……藤原鎌足ノ呼称ト官位名トヲ一括シタ。

小松殿 ……平重盛ノ呼称ト維盛ノ邸名トヲ一括シタ。

※ 役者などの芸名は代が異なっても区別しなかった。

〔例〕市川團十郎へ、二代目、六代目、七代目ヲ一括シテ「團十郎(市川)」ノ項ニ掲ゲタ。

1 特定の称号を付して呼び慣らわしているものについては、その称号を付したまま掲げた。

〔例〕隠岐院 天智天皇

穂積朝臣 八橋・檢校

弘法大師 摩耶夫人

玉藻の前 静御前

2 一般の人名は、実名・雅号などをもって項目とし、姓氏・屋号の類を( )でかこんで付記した。

〔例〕鎌足(藤原) 芭蕉(松尾)

一九(千返舎) 常胤(千葉介)

高祖(漢の) 丹(燕の)

※ 中国人名はこれによらなかつた。

司馬仲達 叔孫通

※ 通称・俗称・戲号などの類は、そのままの形で掲げた場合が多い。

〔例〕鎮西八郎 茶屋四良左衛門

俵藤太 楊子屋おいく

宿屋飯盛 恋川春町

3 法名・妓名・幼名その他姓氏不明のものなど、人名であることが一見分かりにくいものには、\*をつけた。

〔例〕行基\* 宝蔵\* 平公\*

高尾\*

梅が枝\*

牛若\*

忠恒\*

平太郎\*

小町\*

武藏坊\*

犬坊丸\*

孟嘗君\*

4 姓氏の類を項目として掲げた場合は、小字をもって(氏)と注記した。

〔例〕 赤星(氏)

額田部(氏)

橘(氏)

5 同一人物であっても呼称が異なれば、それぞれ別項目として掲げた。したがって必要に応じて関連項目を参看せられたい。

〔例〕 藤原頼長ハ、「頼長(藤原)」ノ項ノホカニ、「字治左大臣」マ

タハ「悪左府」トシテモ掲ゲラレテイル。

### 項目の表記

六 項目を表記するにあたっては、分かりやすさを旨として、適宜、

仮名を漢字に、または、漢字を仮名におきかえた。

1 仮名は特殊な用語を除くのほか平仮名を用い、原則として変体仮名やおどり字は使わなかった。

2 仮名遣は歴史的仮名遣に従って統一したが、いわゆる江戸語や方言などについてはかならずしもこれに倣わなかった。

3 仮名書きで掲げただけでは分かりにくい場合には、下に、「」でかこんで相当する漢字を宛てた。

〔例〕 ゆふ「木綿」 ゆふ「結ぶ」 はに「赤土」 つ「唾」

凡 例

くる「来る」 くる「昏る」 くる「徧る」 くる「繰る」

4 漢字は現代通行の字体を採用し、特殊な死字や異体字などを用いることをつとめて避けた。

5 読みやすくするため、漢字には、適宜、送り仮名または振仮名を施した。

6 二通り以上の字遣を示す必要がある場合は、これを併記した。

〔例〕 めうと(めをと)

てんがう(てんごう)

釈す(尺す)

短冊(短籍・短尺)

火打ち(燧)

あきつ(秋津・蜻蛉)

※ 発音や言い廻しに差異があっても排列順位に異同のない場合は、例外としてつぎのようにした。

〔例〕 団三郎(丹三郎)

兩、塊を破らず(犯さず)

7 品詞などの別を示す場合には、( )でかこみ、小字をもって品詞名などを略記した。

〔例〕 しや(代名)

しや(感動)

しや(接頭)

い「巳」(仮名)

……上代(仮名遣ニ関スルモノ)

ぬべし(連語)

……ニツ以上ノ單語ヲ結合シテイル語

8 省略形をもって項目としたときは、場合により、省略した部分( )でかこみ、ハイフンを付して補った。

〔例〕 はだな(大根)

逢ふは別れ(の始め)

無間(地獄)

でつかち(げ)ない



9 項目の書き出しの部分が、すぐ前の項目とまったく同じであるときは、適宜、その部分を——をもって表わした。

〔例〕 あたひ

——なし

……「あたひなし」ヲ表ワス

——のもの

……「あたひのもの」ヲ表ワス

10 語と語との間に挿入される不特定の語句などを省略したときは、その省略した部分を……をもって表わした。

〔例〕 な……そ

こそ……(自然形)

昔……あり

### 排列と表音

七 排列は表音式による五十音順とした。濁音・半濁音は清音の後に、促音・拗音は直音の後に並べた。

同音の場合は、品詞ごとにまとめ、おおむね自立語を前に、付属語を後にした。

八 表音の方式はおおむね「現代かなづかい」のそれにのっとった。

(イ) ただし、「現代かなづかい」においては「ぢ」または「づ」と書くものも、すべて「ジ」または「ズ」と表音した。

〔例〕 くらぢ「黒血」

……クロジ

ちぢむ「縮む」

……チジム

たづな「手綱」

……タズナ

つづく「続く」 ……ツズク

(ロ) また、助詞「を」「へ」「は」「は」、それぞれ「オ」「エ」「ワ」と表音した。

〔例〕 濁を無み ……カタオナミ

花は桜 ……ハナワ・サクラ

九 時代の推移に伴う音韻変化などのため、古語についてその発音を一定することには無理がある。本索引にあっては、原文における読み方をできるだけ尊重しつつ、現代一般に慣用されている発音を標準として表音をきめた。

※ 特殊な上代語などについては、仮名表記のままに読んだ。

〔例〕 はふる「放る」 ……ハフル

一〇 二通り以上に読み慣らわされているものについては、重複をいとわず、いちいちの読み方に従って排列した。

ただし、排列順位の上でそれぞれが近接している場合、および、つぎのような場合には、かならずしも重出しなかった。

(イ) 促音に読むか。——「赤氣(セキキ・セツキ)ノ類

(ロ) 撥音に読むか。——「神ながら(カムナガラ・カンナガラ)ノ類

(ハ) 連声に読むか。——「三位(サンイ・サンミ)ノ類

(ニ) 濁音に読むか。——「本地(ホンチ・ホンジ)ノ類

(ホ) ハ行の仮名をワ行音に読むか。——「鳩(ニホ・ニオ)ノ類

## ページの出し方

一一 見出し項目の下に、その項目となっている語句の所在する書名・ページ・頭注番号を、この順序で掲げた。同一の書名が重出するときはこれを反復して記さなかった。同一書名の同一のページについても同様である。

- 1 書名は太字で略語をもって示した。書名の略語は「書名略語表」(表紙見返し)および「総目録」目次(五四六ページ)に表示した。
- 2 ページは和数字をもって示した。その数字は、検出さるべき頭注の番号が付せられてある本文のページであって、かならずしも頭注そのものの所在するページではない。

3 頭注番号は洋数字をもって示した。

※ 「今昔物語集」は同一のページの相異なる語句に同じ番号が付してある場合があるので、検索にあたって注意されたい。

※ 補注番号はこれを記さず、補注を参照せしめている本文のページおよび頭注番号を記した。したがって、頭注に↓補注とある場合は補注をも看られたい。

4 歌集・句集などから採った場合は、その語句の所在する本文ページのみを記し、頭注番号を付さなかった。解説・補注・付録の類から直接に採った場合も同様である。

※ 「万葉集一」の「解説」および「校注の覚え書」から採った

凡 例

場合に限り、ページの上に「解」と付記して、本文のページと区別した。

一一 同一の語であるが読み方を異にするもの、あるいは、別語であるが意義を同じくするものは、項目としてはいちいち立てたが、検出ページなどは場合にに応じて一つにまとめて掲げ、↓で参看すべき項目を指示した。

- 1 ↓の下の片仮名は、表音すなわち参看すべき項目の排列順位を示した。
- 2 ↓の下の平仮名または漢字は、参看すべき項目の表記を示した。

## 和歌・俳句・歌謡索引

一一 本大系所収の各作品の本文にあらわれる和歌・俳句・連歌・連句・狂歌・川柳・歌謡および漢詩について、その初句を網羅した。頭注・補注などからは採らなかった。

※ 連歌においては付句のみでなく前句をも、連句にあっては発句のみでなく付句をも、すべて採集した。

※ 組歌などのように、二つ以上の歌が組み合わされている場合には、おのおのの部分に分けて採った。

一四 一首、一句または一曲として首尾完結しているものに限って採録することを原則としたが、歌謡・謡曲・狂言などの本文に引かれてゐる和歌の類は、原形の一部が崩れ、または欠けているものをも採った。

一五 一般に上五文字をもって初句の句切りとしたが、例外もある。

一六 初句を同じくするものは、和歌・俳句・歌謡などの種別を問わず、一つの項目に併せた。

一七 初句を同じくするもの二首(句・曲)以上あるときは、第二句まで掲げて区別した。

※ 第二句以下にわずかな差異があつても、一つのものの異型と認められるときは、区別しなかつた場合がある。

初句および第二句を同じくするものについては、第三句以下の異同にかかわりなく、一つの項目にまとめた。

一八 項目の排列、表記、その他の体裁については、左記を除くのはか、「語句・事項索引」の要領に準じた。

- (イ) 書名・ページのみを記し、頭注番号は付さなかつた。
- (ロ) 同一のページに初句および第二句を同じくするものが二首(句・曲)以上あるときは、そのページを二つ以上繰返して掲げた。

(ハ) 例えば「天」「雨」などを「アマ」と「アメ」とのいづれに排列するかについては、原文における読み方に従うことを原則とし、重複して掲げることをしなかつた。

## 総目録

一九 本大系所収の作品名、巻名、章段名、曲名、およびそれらの所在ページを、書目ごと一括して表示し、本大系の各冊に収載されている作品の範囲を瞭然たらしめた。

二〇 校注者名、使用した底本の種類ならびに付録された解説・図表の類の概要を併載した。

語句・事項索引

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十
三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十
四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十
五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十
六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十
七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十
八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十
九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百

ン	ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
三七六	三七二	三六四	三四八	三一八	二七四	二五五	二〇七	一四四	七三	一一
		リ		ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
		三六五		三二六	二八七	二六三	二二三	一五八	九七	二七
		ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
		三六九	三五四	三三五	三〇〇	二六八	二三〇	一八八	一〇九	四三
		レ		メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
		三六九		三三九	三〇九	二六九	二三七	一九四	一一八	五三
		ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ
		三七〇	三五八	三四二	三一	二七一	二四三	二〇一	一二五	五七

ア

阿万四三 徒三〇八  
あまふし 竹巻 古謡二〇  
あひ(間) 西田二二四 近田四一八  
八四 秋二七 13 酒五九  
あひ(相)被褥 源四四二七 国二七  
13 今〇〇〇 太〇二二  
あいあい 連論四三二  
相合煙管 近田二二二  
あひうづなふ 祝四三三 万四二  
合縁奇縁 近田三二四 四三六  
相生挿し 西田三三二  
間を弾く 川五五  
相思草 近田三三九  
相音 能論三三三 四三三  
秋鹿 風土五二四  
愛河 万〇〇 太〇四九 〇〇三  
相懸か 万〇〇 太〇四九 〇〇三  
相駕籠 近田三三三 三三三  
相貸家 西田二二二  
合方(相方) 伎田七三三 二五三  
逢ひ難き法 謡田七二四 中謡六  
相構へて 今〇〇七六 平〇〇三  
阿井川 風土三三  
阿伊川 風土三三  
合川の津 義三三六 五五七

ア—アウウ

間着 酒三七  
愛敬 源〇七 今〇〇六 宇治二九 徒九 13 伽五 17 中謡六  
7 近田三九七  
愛敬 徒六二  
愛敬稲荷 風来雲三  
愛敬のはじめ 源〇五九 12  
阿育王 今〇〇二四  
合口 狂田三三 14 膝三三  
合口の木 伎田六六 11  
藍隈 浮田八  
あいくろし 近田七四  
哀見 能論四四八  
哀(魯)の 太〇六三  
愛甲三郎 黄二五 11  
相言 伊二五 38  
合言葉 弓田六三  
愛護の若 浄田七三三  
藍こび茶 風来三〇三  
アイ座 謡田六  
挨拶 西田七四 近田四四 40 伎田一  
16 国二六 膝四四 1 国九 39  
挨拶切 近田三三 〇〇九  
挨拶よし 西田八七六  
藍殿 西田七二 近田三六 26  
愛子 宇田四一 三  
あひぢか 義三三三  
愛憎 今〇〇九二  
愛執 平田四一六 謡田六一  
相傷 西田三五 浄田三三 48  
あひしらひ 能論三二 連論四六  
3

あひしらふ 平田九二 国六 13  
あひす 平田三三 10 西田三三 16  
相四 太〇二六  
会津郡 平田四三 1  
会津嶺 万〇〇五 蕉文二七  
会津盆 蕉文四二  
相狗り 浄田三三 30  
藍摺り 平田六八 11 義三三  
間鼓 西田四七 44 国九  
愛染宝塔 太〇七九 28  
愛染明王 太〇五二 11 謡田四三 31  
西田四一 13 近田三九 49  
愛想 中謡三七 近田三三 14  
愛想つかし 近田三三 16  
藍染川 伽四一 19  
あひだ(間) 今〇〇四 10 宇治七  
23  
会田 平田二五 12  
鬨 今〇〇四 3 弓田三三 38  
相對 西田四四 48 伎田七四 45 連  
論二二  
挨拶 西田三三 23 近田九 54  
あいた口へ餅 黄二七 20 酒五三 3  
合ひ竹 謡田九一 10 国三 2 狂田  
三五 36  
あいたしこ 近田二二 31 浄田二六  
3 風来五 32 膝三三 14  
あいだなし 源四四 10  
あいたでなし 近田六三  
あいたどころ(朝所) ↓あいだ  
んどころ  
逢ひた見たさ 中謡四一 17  
あひだよ(間夜) 万〇〇四 元  
あいだる 源四四 1

あいだんどころ(朝所) 枕三三  
4 保四六 平治二九 40 平田五五 19  
阿一\* 秋六二 25  
相付く 義三三 17  
阿逸多 太〇六六 10  
あひ釣瓶 西田三三 八  
あひどほ(間遠) 蕉文三三 14  
相床 西田四三 33 四八  
相長屋 膝四七  
あいなし 宇田七二 24 落三 16 三三  
18 堤四六 19 源〇七 20 〇七 21 二二  
11 紫四四 6 七一 18 泉四二 25 五五  
12 今〇〇二 21 徒三六 二  
あいな頼み 更五  
相替の祭 太〇四六  
相替 祝四三 5  
相盗人 宇田二九 23  
阿比野 風土三三 七  
あいの池 義三三 5  
あいの抑への 膝三三 17  
あひのき(相退き) 保二二 40  
間の宿 近田三三 1 川三  
あひの枕 伽三三 3  
あひの鞭 太〇七三 6  
あひの山 狂田六五 24 中謡三〇 3  
間の山 近田二五 33 膝三三 2  
一の袖 西田三三 10  
一節 西田四二 25 近田三三 33 浄  
田三三 4  
相引き 太〇四九 19  
相別森右衛門 秋四四 9  
愛別離苦 今〇〇六 14 保三 5 平  
田六 17 太〇三三 18 伽九 23 中謡  
四六 6 西田四三 23  
合間こま 浮二二 5

哀愍 納受 謡田四三  
哀愍りさん 謡田四三 4  
合簪 今〇〇七 3  
合ひ筵は踏まず 浄田二二 〇五  
あひやけ(相肩) 近田三三 35 浄  
田三三 4  
相宿 近田六八 9 伎田七三 37 〇〇四 7  
阿為山 風土六六 24  
愛欲貪恋痴 謡田五二 21  
相読み 近田四二  
藍より青し 中謡四七 27  
あいら(代名) 近田二二 12 酒三三  
12  
あふ(合ふ)会ふ逢ふ 竹三三 14  
枕三三 今〇〇三 12 一七 24 〇〇三 九  
88 四三七 23 国四五 宇治二一 〇一四  
8 二一 18 徒六九 9 平田三三 18 〇  
〇二 11 伎田二二 15  
あふ「和ふ」 伎田三三 31  
あふ「敢ふ堪ふ」 万〇〇五 四  
空 宇田四二 〇〇五 落三三 紫四六 16  
宇治三三 25 新〇  
逢ふを待つ間に恋ひ死ななは人  
知らぬ恨みなるべし 秋三三 37  
相鹿 風土三三 5  
逢鹿 風土三三 5  
逢ふ期 ↓オウゴ  
あふさわに ↓オウゴ  
逢ふ瀬 ↓オウセ  
あふなあふな ↓オオナオオナ  
逢ふ物から 源四四 11  
逢ふ人 古謡四一  
足占 万〇〇三 〇〇六  
逢ふは別れ(の始め) 謡田三三 突  
6 中謡三三 13

阿咩アヒ (阿咩) 謡国七三六 伎国

九二九

アエ

あへり 海国五三〇

あへ返す 海国三二〇

あへくアヘク 万口六八

あへらふ 源西三三 二五二〇

あへす 義九二八 伽六三 浄国三五

あへづく 保二八一

あへらへく 落九一八

あへたりも 落九一八 梅三六〇

敢へて 今口二三三 三三三 四四九 五

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

敢へなく 源三三三 三三三 五九二

(ア九)

あか赤 宇口四一九

あか厚 蕪三 弓国三二二

あか源 源口七二 三九二 今口〇

あか關 伽六三 山三三三 徒六八

赤井 太口四七 七七九

關加井 山三三

あかひ 宇治三二

赤井赤日 河原 保二五七 平国四

赤猪子赤猪子 記三三 四

赤い紙燭 川三六

赤い信女 川三六

赤赤毛の車 源西二九八

赤赤の坊 狂国三三〇

赤赤赤 源口三〇 源口七二 八〇六

赤赤の袍 源口三三 三三三 五九二

赤赤赤 西口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかあか 万口三三 三三三 五九二

あかがり 平国三三18  
赤革織 平国三三13  
赤木 狂国七六11  
赤城 風来四三  
あがき足捲 伎国三九20  
赤きを人間と定め黒きを牛馬と  
定む 狂国七六8  
赤き粥 宇国三九10  
赤き白椽 源国三九29  
あがきぬ〔赤衣〕 枕五三7平国三  
四一五  
あがきぬ姿 源国二九22  
赤城ノ神柱 金四七  
赤木の数珠 謡国三九32  
赤木の柄 養元二一三三4  
紅き紐 記五七2枕五二25  
あが君 宇国三九25  
19 枕五二8 今国三九55 宇治三九  
32  
あが君や 泉四二18  
蛙楽 連論七1  
あかか〔足掻く〕 宇国三七34平  
国四二25  
赤朽ち葉 宇国二二10 源国三三6  
贖祈あか 万四四三  
赤香 宇治三三35  
赤膏葉 浄国三三24  
赤米 西国四〇8 国六二〇  
赤坂 謡国八二6 五二〇 蕉句充 風  
来一六13 藤三〇一  
赤坂奴 狂歌三〇  
赤坂山 太国二〇51  
藜の杖 風来六六 川三六  
赤沢山 謡国三九37 伎国四三33 34  
明石ノ穴和川 伎国七二〇  
明かし 風土五二12 宇治七九34  
明石の上 連論三二5

明石の浦 古今六五 源国四七  
明石の門 大鏡三14  
明石の駅 平治三九  
赤地の錦の直垂 平治三九  
あかしま〔魔〕 弓国四六  
赤島 風土四二22 一五8  
垢染衣紋のし 狂歌三三  
あかしゆる〔紅機〕 弓国四四15  
赤印一揆 太国三〇  
明かす 記七七16 万四四七 大鏡三  
二二  
飽かす 落三三10  
あかすかい 膝六五 浮七九  
あかすけ 宇国三三  
あかすけ〔赤面〕 ↓アカツラ  
赤藏 浄国三六八 黄六七  
赤さぶ 蕉句四〇  
赤染衛門 紫五五 今国四四六 新四  
五 歌論七九  
阿闍陀 今国三二7  
あかた原 風土五七 土七五  
關伽棚 源国四六 四六二 宇治六  
二 方二二〇 徒九一五  
泉主 風土三〇  
泉の井戸 大和六六  
泉ノ大養命婦 万四四一  
泉の院 か元五二  
泉ふる 蕉句三  
赤玉 記五五八  
泉見 古今三六  
泉神子 西国六二  
泉女 蕉三  
泉召 源国四三 伽六三  
あかつき〔紅木〕 弓国六二  
關伽架 源国四七 養三三六  
眺がた 源国四六12

晚月夜 土四一  
晩の露 留むる記念 中謡突  
晩の跡 金三  
晩の別れ 源国九一 中謡四  
晩参り 源国三九  
あがつたし 狂歌三二  
あがつたり大明神 浮七  
吾妻 氏 養元二四  
赤手拭 風来三  
赤手の骨法 中謡九七  
あかた 枕一〇  
赤穴 氏 歌四四  
赤螺 近国四四  
赤丹には 万四九  
赤丹のほ 祝五九  
あか主 万四九  
あかね茜 万四三  
——さす 万四三  
——染め 万四三  
べりの蚊帳 西国五五  
關伽の具 源国四一  
英賀の里 風土五九  
吾妹の松原 万四二  
赤幡 記三三 古謡  
赤幡の 風土四八  
あかね〔紅花〕 源国七五  
英賀野の神 風土六二  
赤人〔山部〕 万四九  
△△新四九 秋三二  
あか星 落三三  
氣能命 風土五三  
赤衾 伊豊意保須美比古佐和  
明星 万四九 山三  
赤星 風土四三  
赤星 氏 太国六二  
あか仏 竹三三 宇国六五 七二 一六

23 太国四七16 中謡九一 浮二〇  
3 連論三三  
上がる杭 宇治六六  
明るけりや月夜 風来三九  
あかるた〔明栞〕 祝三九  
あかれ〔別〕 源国三三  
あかれ 大鏡 五二二 三三  
阿膠 酒三三  
あかん平 風来二二  
〔アキ〕  
秋 中謡 弓国三二  
安芸 氏 平国四八  
あき吾君 記三三 二五 古謡  
〔アキ〕  
草家藤原 今国九一  
頭家北畠 太国九一  
頭氏細川 太国九二  
あきうと〔商人〕 ↓あきんど  
秋納め 近国三三  
あきかへし〔商変〕 万四三  
秋風が立つ 狂歌三九  
秋かたまく 万四三  
草兼中原 徒五六  
秋か 今国四〇  
秋かわき 川元  
明清〔坂上〕 太国四六  
秋狂言 風来三六 黄五二  
秋あはれる年 山七  
秋毛 義三  
あきさ〔秋沙〕 万四三 歌論  
2 源二  
顕定〔源〕 今国三  
秋さり衣 万四三  
あきし 新三 太国三  
秋篠 新三 太国三

アウンアーキシ



あきつ「秋津・蜻蛉」→アキツ  
 顕季(藤原) 新撰六 歌論三六  
 顯輔(藤原) 新撰九 歌論六二  
 飽田 風土九二1 今国六二九  
 秋田城介 太四一五三  
 顯忠(藤原) 大和七〇八 大鏡三三  
 宇治記九  
 秋田屋 西四一五五  
 明親(大)中臣 新撰九  
 あきつ「秋津・蜻蛉」 一万〇元  
 二三  
 秋津(文屋) 秋二五  
 あきつ神 祝詞五五 万〇元  
 あきつ事 祝詞五七  
 秋津屋 蜻蛉洲 万〇二 太四三  
 二四  
 秋津島根 謡曲三七七  
 秋津洲 謡曲三三〇  
 顯綱(藤原) 新撰九  
 秋津野 記三五 古謡六 万〇元  
 九四三 三五〇 三三三  
 あきつ羽巾 万〇元  
 あきつ「二鯉」 宇治三三三 平国三三五  
 二〇 養一八  
 あきつ心 記九七  
 あきつ心 か四七  
 顯時(藤原) 保心三〇 平国三六一  
 一六一  
 あきなひ「商」 竹四三  
 一〇 西四三三 一七  
 一〇 冥利 近国三六五  
 顯仲(藤原) 新撰九  
 顯仲(源) 新撰九  
 顯長(藤原) 新撰九  
 秋成(上田) 秋三  
 秋の色 新四三

安貴(主) 万〇六五  
 安芸守 川三  
 秋の興 中謡四  
 秋の暮 源四七  
 秋の心 中謡六三 兼句五七  
 秋の霜 太四七九二 三三  
 秋の調へ 太四三一九 三三  
 秋の出替り 西四二二  
 秋の半ば 金三  
 安騎の野 万〇三  
 秋のの儀 古今一  
 明順(高僧) 枕四三九 大鏡五  
 今三  
 顯信(北畠) 太四三  
 秋の坊 蕉文元一五  
 秋の祭 祝元  
 秋の水漲り落つ 謡曲四一九  
 秋の湊 金三  
 秋の宮人 新二  
 秋の山 謡曲八三六 中謡六一  
 秋(夜)長物語 伽  
 秋葉(三)尺坊 川三 藤六二  
 安義(橋) 今四九  
 あきつと「商人」 ↓あきんど  
 明衡(藤原) 今四四一 宇治三六  
 二  
 顯房(源) 新四  
 顯舟の室 新四  
 秋冬の馬料 太四四  
 あき間 平四一  
 明理(兼) 大鏡四  
 あきみち 加二  
 顯光(藤原) 紫三三 大鏡五  
 三三 宇治三三  
 鮎(漢) 土三

あきむね\* 宇治三六  
 あき目 黄二  
 顯基(源) 今四九一 徒去一八  
 あきもの「商物」 秋三  
 秋山 平国三九 太四三七  
 秋山(氏) 太四二六  
 秋山の下びを 記九  
 阿香 加五  
 阿膠 ↓アカワ  
 顯能(北畠) 太四六  
 顯頼(藤原) 平国三  
 あきらか 宇四二  
 明子(兼) 大鏡三  
 あきらむ明七 万四  
 あきらめ問ふ 今四  
 あきるもせぬ 黄八  
 あきんど「商」 源三  
 二四 三三 秋三  
 一 氣質 西四  
 のよき絹着たる 西四  
 一 は相身互ひ 浄国三  
 「ア」 弓国三  
 あく「源」 大鏡二  
 あく「空く」 今四  
 あく「疎く」 今四  
 悪(接尾) 保五 平治二  
 あく(接尾) 大和三  
 あぐ「下」 伊二 大鏡  
 四七 今三 平国三  
 安居院 徒二  
 悪汁打紙 兼七  
 悪縁 平国三  
 灰汁桶 蕉句  
 悪方(悪形) 川  
 あくがる 塊三 源三  
 三 宇治三 新二 山三 平

困六  
 掘瓶 歌論二五 連論三  
 悪逆 狂国三五 浄国二七  
 悪逆塚 秋六  
 悪慮無道 義三  
 悪行無道 義三  
 悪銀 西四二  
 悪源太\* 平治二 義三  
 悪源太\* 太四一  
 悪源太\* 今四三 義三  
 悪五郎(土岐) 太四  
 悪左府\* 宇治二 平国六  
 悪路王 義三  
 悪七兵衛 太三  
 悪疾 万四  
 あくじの高丸\* 義六  
 悪趣 太四  
 悪所 平国三 義四 狂国  
 中謡七 西四七 川二  
 悪所 平国三 義四 狂国  
 悪所 近国三 依国三  
 悪所 能論二  
 悪所らし 中謡二  
 悪所落ち 西四  
 悪所落し 平国三  
 悪所つかひ 西四  
 悪所は誓文 浄国  
 悪心 大鏡五 今三 平国  
 あくせい 浮二  
 あくせえ 浮三  
 あくせき 依国  
 悪僧 太四 義三  
 あくぞもくぞ 浮九  
 悪態 風来三 浮九 梅二

悪態書 梅三  
 芥川(伊) 太四  
 芥河(氏) 太四  
 あくた口 浄国  
 芥滑て舟 西四  
 芥もくた 茶三  
 悪たれ者 狂歌  
 悪太郎 狂国  
 悪知識 太四  
 あくちも切れぬ 近国  
 来三  
 あくちも切れぬ 近国  
 あくどい 梅八  
 悪道 宇治七 平国  
 近国  
 悪毒を吐く 宇  
 阿久斗比売 記  
 悪日 茶  
 悪に強いは善にも強い 狂  
 近国  
 悪人 西四  
 悪人の友をふり捨てて善人の敵を招け 謡曲  
 悪念 宇  
 鮎の浦 万  
 鮎汁の抜けり 浮  
 悪の報いは針の先 風来  
 鮎庭(氏) 太  
 悪徒 依国  
 悪汁光 浄国  
 悪口照る 茶  
 あくぶ 枕  
 悪風 今  
 悪魔 宇  
 あくみ者 蕉文